

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	上下水道部	
	17011	水道生活基盤整備事業	課名	上水道課 上水道工務G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上	財務科目	会計	11:水道公営企業会計
	基本施策	03:上下水道の充実		款	資1:資本的支出
	施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給		項	01:建設改良費
戦略プロジェクト	-	目		01:施設費	
事業予定期間	H 29 ~ R 3 年度	主な根拠法令要綱等	水道法		

目的・概要	対象	川崎町、住山町の加圧エリアの住民
	目的	川崎町北部地区、住山町西部地区の水量・水圧低下を解消するため、加圧ポンプ室の機能強化を図り、安定した水道水の供給を図る。
概要		加圧ポンプの容量不足が発生し、施設の老朽化が著しい「川崎加圧ポンプ室」及び「住山加圧ポンプ室」について、隣地土地を取得し、新たに施設を建設する。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
年度計画	年度計画	川崎加圧ポンプ室 ・外構工事 ・機械・電気設備工事 住山加圧ポンプ室 ・登記事務 ・詳細設計 ・地質調査 ・用地買収	住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事、外構工事 ・建築工事監理 ・機械・電気設備工事	住山加圧ポンプ室 ・土木建築工事、外構工事 ・建築工事監理 ・機械・電気設備工事	
	年度実績	○川崎加圧ポンプ室 ・建設工事(その1)(土木・建築)(H30繰越) ・建築工事監理業務委託(H30)繰越 ・外構工事 ・機械・電気設備工事 ○住山加圧ポンプ室 ・登記事務・詳細設計 ・地質調査・用地買収			
事業の計画・実績	計画額	事業費	155,100千円	138,600千円	130,700千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
	一般財源	155,100千円	138,600千円	130,700千円	
	事業費	事業費	195,165千円		
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
その他					
一般財源	195,165千円	0千円	0千円		
決算額	事業費	184,839千円			
	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
一般財源	184,839千円	0千円	0千円		
人件費	総人件費	6,044千円	0千円	0千円	
	一般職員	6,044千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.77			
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		190,883千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度	
指標	名称	川崎地区加圧ポンプ室改良工事整備率 実施済み事業費/総事業費	活動	計画値	100		
			実績値	100			
			単位	%			
	名称	住山地区加圧ポンプ室改良工事整備率 実施済み事業費/総事業費	活動	計画値	12	56	100
			実績値	9			
			単位	%	%	%	
	名称	水圧不足となるエリア内の給水水圧 各加圧ポンプ室完成後における使用量ピーク時間帯の水圧状況(令和元年度は川崎地区、令和3年度は住山地区)	成果	計画値	0.2		0.2
			実績値	0.2			
			単位	Mpa以上		Mpa以上	

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 川崎町北部地区の水量・水圧不足の早期解消に向け工事を実施する必要がある。また、住山町西部地区の水量・水圧不足の解消に向けても、実施設計等を計画どおり進める必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 川崎加圧ポンプ室については、繰越した平成30年度の土木建築工事を早期に完成させ、令和元年度の機械電気工事についても計画どおり発注を行った。また、住山加圧ポンプ室についても、早期に施設用地の確保を進め、詳細設計を計画どおり発注した。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 川崎加圧ポンプ室は、電気・機械設備工事と外構工事を発注し、年度内に完成した。また、新施設への切り替え作業も年度内に実施した。住山町西部地区の設計業務等の委託を行った。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 川崎町北部地区については、水道使用量がピークとなる朝夕の時間帯でも計画値である0.2MPa以上の水圧を確保でき、平均水圧も上昇したことから、全体的に水量・水圧が解消された。また、住山加圧ポンプ室については、詳細設計等が完了したことから、今後実施する工事が完成次第、水量・水圧不足の解消が図られる。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 住山加圧ポンプ室については、工事期間が2か年に渡る工事となり、かつ、土木建築工事、機械電気工事と受注者が異なる工事が並行して施工されるため、相互に調整を行い進捗を管理することが求められる。また、建設現場が狭小であるため、安全配慮が特に必要である。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 工程会議等を開催するなど積極的に工程管理を行うことで、計画的に施工を行い、工期内に工事を完成させ、かつ、現場内の整理整頓や作業員の重複作業をできる限り避けるなど、安全対策を徹底させることで、事故等の無い施工を実現する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 工事が完成し施設能力の向上が図れることで、水量・水圧不足が解消され、住民に対し水道水の安定供給が図れる。	
対応時期		令和2年度～令和3年度	

【1次評価者】	上下水道部 上水道課 上水道工務グループリーダー 山内 光広
【最終評価者】	上下水道部 上下水道課長 杉本 良則

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	B	A		
	成果	A	B	A		

令和元年度予算額(事業費)の内訳	
内訳	予算額(事業費) 195,165 千円
	平成30年度からの繰越額 68,819 千円
	令和元年度の最終予算額 126,346 千円
	令和2年度への繰越額 千円